

令和6年奥能登豪雨に係る
第15回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 先週末の10月11日(金)、国には、奥能登豪雨からの復旧にかかる予備費509億円の支出を決定いただいた。

浸水した仮設住宅の修復をはじめ、地震と豪雨による災害廃棄物の一体的な処理、権限代行による公共土木施設の復旧に係る経費などを速やかに措置していただき、改めて感謝申し上げます。

- また、先週10日(木)、小里農林水産大臣と面会し、地震・豪雨からの一体的な復旧・復興に向けた支援を要望した。

これを受け、国は、これまで措置した予備費を活用し、被災した農業機械・施設、木材加工流通施設や漁船・漁具等の再建・修繕などについて、地震と同水準の支援を講ずる支援パッケージを公表された。改めて感謝申し上げます。

県としても、被災した農林漁業者の負担軽減を図るため、国の補助に上乘せすることにより地震と同水準の支援が行えるよう、市町等とも連携して必要な準備を進めていきたい。

さらに、14日に面会した武藤経済産業大臣からは、今回の豪雨被害からの復旧については、地震と一体的に扱うこととし、「なりわい再建支援補助金」、「持続化補助金」、「伝統的工芸品産業支援補助金」については、今回の豪雨災害も支援対象にすると表明いただいた。改めて感謝申し

上げる。

一日も早い生業の再建に向け、被災した事業者の皆さんに活用いただけるよう、しっかりと周知を図ってほしい。

- 今回の豪雨災害により、住宅が床上浸水等の被害に見舞われ、輪島市と珠洲市において、多くの方々が自宅での生活が困難となったところであり、先日、輪島市・珠洲市から、新たに応急仮設住宅を建設するよう要望があった。輪島市で290戸、珠洲市で100戸、珠洲市は調整中とのことである。

まずは用地が確保できた

- ・ 輪島市杉平町の86戸、
- ・ 門前東小学校グラウンドの30戸

について、明後日18日（金）に着工することとした。

今後、輪島市・珠洲市と調整を重ね、準備が整い次第、順次、着工する。

2. 会議最後の発言

- 先週11日から輪島市の被災者の方々の2次避難が始まった。1次避難所に避難されている方々も含め、これらの方々への生活支援、定期的な情報提供など、きめ細かなサポートをお願いしたい。
- 自宅での生活が困難になった被災者向けの仮設住宅については、必要戸数が速やかに建設できるよう、輪島市・珠洲市との調整を急いでほしい。
- 奥能登豪雨の発生から間もなく1カ月が経過するが、災

害対策のフェーズについては、初動応急対応から復旧期に移っている。このため、この災害対策本部員会議については、今後は必要に応じて開催する。

ただし、被災地では未だ避難所が設置されていることから、災害対策本部の体制は継続する。